
0 から始める小説の書き方徹底講座！

N.M.ぺんくらぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

0 から始める小説の書き方徹底講座！

【Nコード】

N3716BA

【作者名】

N・M・ぺんくらぶ

【あらすじ】

「小説を書きたい」あなたへ捧げる執筆技術向上講座です。想像を膨らませて物語を考えるのはとても楽しいことです。それを他者へ伝えるにはちょっとした技術が必要です。表現したいことが伝わらなくて面白くないと判断されるのはもったいないですよ。もっと評価されたい、新人賞を取りたい、趣味として執筆技術を向上させたい。そんなあなたにぴったりの小説の書き方がわかるエッセイです。講座だからと気負う必要はありません。お気軽に入り登録した小説を読むような感覚で、ちょっとした時間を利

用して驚くほど執筆技術を向上させてしまいましょう！

しばらく連続性のない記事投稿になると思いますが生温かい目で見守ってくださいませ。一定の分量に達すれば章管理機能を利用して編集（カテゴリ分け）していく予定です。

はじめに

いらっしやいませ！

このサイトには多くの読者と作者がいるわけですが、その中には「小説は難しい」と感じている方がいるかもしれません。確かに音楽・映画・漫画・アニメと数多く存在する娯楽の中から小説を選ぶ人は少ないようです。

逆説的に考えれば小説を楽しむの一つにしている「あなた」は、受動的に楽しめる娯楽では飽き足らず能動的な選択をしたのでしょう。さらに突き詰めれば少なくともこのエッセイを開いた方は「読むこと」だけでなく「書くこと」にも興味を抱いる可能性があります。

ここではそういう「書いてみたいけど、よくわからない」や「なんとなく書いてみたものの、この先どうすればいいんだろう」という方を対象にした「小説の書き方」を解説していこうと考えています。難しく考える必要はありません。お気に入り登録した小説を読むような感覚で、ちよつとした時間を利用して目を通してください。

一例ですが小説を書くとは想像力を創造力に変えることです。しかしこれがなかなか厄介で、慣れるまでは頭の中で考えたことを上手く表現できません。つまり物語を考えることは決して難しくありませんが、それを他者へ伝えるにはちよつとした技術が必要になります。表現したいことが伝わらなくて面白くないと判断されるのはもったいないですよな？

私にもそういう時期がありました。悔しい思いをしたことも一度や二度ではありません。しかし技術力を高めていった甲斐もあって、

ライトノベル系の新人賞で末席に加えて頂くまでに至りました。誰からも支持される物語の構築方法を教えることはできませんが、物語を伝えるための技術や表現方法は培った経験からお話することができます。これから綴るエッセイは私個人だけでなく、同じく受賞経験者のMさんが共同しているため、主観と客観を踏まえた記事を掲載していけると自負しています。興味のある項目だけ読んで頂いても構いませんし、気になる点を直接質問して頂いても構いません。小説家になろうで活躍したい方もそうでない方も、プロ志向の方もそうでない方も、小説技術向上に興味がありましたらお付き合いくださいませ。

また小説家になろうで評価を得難い良作を紹介していければと考えています。これは「VRMMO」や「異世界転生（トリップ含む）」の圧倒的なアクセス数に飲み込まれた作品が多いと感じたからにほかなりません。こちらは「流行以外の良作を読んでみたいけど探すのは大変」という方の手助けになれば幸いです。 N

はじめまして。 N氏と共同でエッセイを書かせて頂きますMと申します。

なるべく多くの方に役立つ記事を書けるように心がけてゆきますので、どうぞ末長くお付き合いください。 M

メモのすゝめ

「あつ！ 今カッコイイ台詞を思いついた！ 家に帰ったら早速小説に書き加えよう！」

←帰宅後

「忘れた……」

こんなことにならないように、普段から思いついたその場でメモを取る習慣を身につけましょう。

小説のアイデアはところかまわず、いつ湧き出てくるものかわかりません。

学校でも、職場でも、トイレの中でもお風呂でも。小説について考えている限り、ところ構わず浮かんできます。

逆に言えば、どんなところでも小説のことを考えてしまう。それが創作者の宿命なのかもしれません。

ちなみに私は犬の散歩中によく浮かんでくるので、執筆中も家の中でウロウロ歩き回っていることが多々あります。

サッカーのリフティングをしながらだと推理が捗るというコナン君と同じ要領ですね。

こんなふうには何か別のことをしながら考えるのは、実は結構オススメです。なぜこれで捗るのかは謎です。

メモは手書きでも携帯電話のメール保存でも、ボイスレコーダーへの吹き込みでも構いません。

小説の内容に役立ちそうなことを思いついたら、たとえ恋人との初デート中でも迷わず入力保存してしまいましょう。

・執筆中の物語の設定変更案

- ・より面白い展開になる改稿案
- ・今後書く予定のシーンの流れ
- ・キャラの印象的な台詞
- ・プロットの種（ネタ・アイデア）

特に書いておくと役立つのはこの辺りでしょう。

本文執筆直前やプロット作成の前にこのメモを読んでおくと、驚くほど作業効率が上がることがあります。

基本的に執筆は「イメージ↓文章化」の流れなので、イメージする手間が省けるのです。

また長時間の執筆により疲れた頭で考えるより、リラックスした状態の方が読者目線で物語を追うことができます。より面白く、より破綻のない方向に物語を動かすことができるという点で、先にメモを取っておくのは大いに有効です。

あとで取りためたメモを見て、そのいい加減さに自分で爆笑するという上級者的な使い方もできオススメです。

注意！

メモを取るのには良い事ですが、夢で見た内容をメモに取る際は注意しましょう。

私も普段感動的な夢を見たり、夢の中で異世界を経験したりすると、その内容を小説にしてみたくることがよくあります。

しかし夢の中の自分は軽い催眠状態に陥っており、単純なことも感情的になってしまいがち。

目覚めた直後はまだいいのですが、数日後に見返すと「意味不明」「支離滅裂」がこれほど似合う走り書きは他にない……。 「ベタ過ぎ」「狙い過ぎ」も見事に当てはまる印象です。

夢で見たアイデアを小説にする際は、ちゃんと小説として他者に通用する内容であるかどうかを吟味しなければいけませんね。 M

自己分析を試みよう

まずは好きな小説を五つ挙げてください。

WEB小説でも一般書籍でもライトノベルでも構いません。

ただし一過性の好みではなく強い影響を受けた作品を選んでください。

? 四畳半神話大系 森見登美彦

? 涼宮ハルヒの憂鬱 谷川流

? 虐殺器官 伊藤計劃

? マルドウツク・スクランブル「改訂版」 冲方丁

? 空の境界 奈須きのこ

数字は順位ではありません。

次に出揃った小説を客観的に分析してみましょう。

? ? ? は一人称。 ? は三人称。 ? は一人称複数視点 + 三人称。

? ? ? は主人公が長広舌の日常 + SF（少し不思議）で誰も死なない。

? ? ? は映画のようなスケールで人の死も描かれるSF。

? は日本を舞台にした暗い雰囲気伝奇小説で人の死も描かれる。

大きく分けて好みの小説が二種類ありそうですね。

? 主人公が長々と脳内思考を垂れ流しているうちに非日常な出来事に巻き込まれる。

? 圧倒的なスケールの物語を緻密に描いた作品。

ここまで読んだ皆さんはどのような小説を紹介してくれるでしょうか？

文末に好きな小説を書いておきますので予想してみてください。

さて、ここで少し息抜きと行間稼ぎを兼ねてアニメの話をしてしまおう。

「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない」

ここ最近のアニメで一番一週間が待ち遠しかった作品です。誰にでもおすすめることができる物語なので、観たことのない方はこの機会にどうでしょうか？

「魔法少女まどか マギカ」

個人的にはこちらもおすすめなのですが、魔法少女アニメとして観ると痛い目に遭います。ダーク系の物語も好きという方はどうぞ。

そろそろ答え合わせをしましょう。画面をスクロールすると小説一覧が出て来ます。

？とある飛空士への追憶 犬村小六
？されど罪人は竜と踊る 浅井ラボ
？化物語 西尾維新
？砂糖菓子 of 弾丸は撃ちぬけない 桜庭一樹
？プシケの涙 柴村仁

あまり数を増やすと当たる確立が高くなってしまふので以上。
まず最初に謝らなければならないのは？？で見られるような切ない系の作品が含まれていることです。二十作くらい挙げれば半数はありそうなのですが、どうしても強い影響を受けた五作には推せませんでした。

ちなみにこの中で誰にでもおすすりめるのは「とある飛空士への追憶」です。「されど罪人は竜と踊る」は二巻だけなら圧倒的な破壊力なのですが、シリーズ全体（最新巻に近いほど微妙）を通すと推し切れないところがあります。まあ、それを言い出すと「涼宮ハルヒの憂鬱」も「消失」以降どうなんだって話になるんですけどね。

自己分析で好みの傾向を明確にできたでしょうか？
書き手としては原点となる作品を「はつきりとさせておく」ことで方向性を見失いそうなときに役立ってくれます。また読み手としても闇雲に「面白い小説を教えてほしい」と言うより、好きな傾向を正確に伝えたほうが紹介者もピックアップしやすくなりますし、なにより趣味に合う小説を紹介してもらえ可能性が格段に上がります。

好きな「音楽・映画・漫画・小説・アニメ」はなんですか？

そんな質問を投げかけられたとき咄嗟に売れ筋や流行の作品名を挙げていませんか？

心当たりのある書き手さんは自己分析を通じて改善してみてください。それだけで創作に対する意識が違ってくると思います。 N

最初にどんな作風にするか決めておく？

「自分も小説を書いてみたい！」と思っているあなたへ。——待て、早まるなっ！

実際に小説を書く前に、ちょっと考えてほしいことがあります。まず小説の分類を知り、各ジャンルについての知識を整理してみませんか？

そのうえで、自分はどんな小説を書きたいのか。そういう方向性を、あらかじめ定めておくことをオススメします。

Q・小説の分類って言うけど、どんなのがあるの？

大きく分けて2つ。芸術性を追求した「純文学」と、読者を楽しませることを追求した「大衆小説」です。

大衆小説は「大衆文学」、あるいは「エンタメ小説」と呼ばれることもあります。

ちなみに純文学について語れなんて言われても私には、無理……っ！

ですので基本的に私が紹介する小説作法は大衆小説についてのものであり、特に得意分野であるライトノベルに適用する話が多いと思います。そのことをあらかじめご了承ください。

相方のNさんともかくとして、私ことMは文学畑の作品を完全に好みで読んだり読まなかったりなので、善し悪しを客観的に分析できないのです。

言い換えれば純文学とは、それだけ主観的なジャンルなのかもしれません。

あるいは多くの書物を読み文学に精通していなければ、さっぱりわからないジャンルとも言えます。

Q・「純文学」と「大衆小説」はどう違う？

芥川賞に選ばれるような作品が純文学で、直木賞に選ばれるのが大衆小説というのが一般的なイメージです。

具体例を挙げると、金原ひとみさんの『蛇にピアス』が芥川賞受賞作で、桜庭一樹さんの『私の男』や池井戸潤さんの『下町ロケット』が直木賞受賞作ですね。

大衆小説の中には「一般小説」と「ライトノベル」がありますが、両者には明確な違いがあるので分けて考えましょう。

また、近年はWEB読者に向けた「ネット小説」が独特の発展を遂げつつあります。「ジャンルのるつぼ」のようなネット小説に対し内容で明確な分類をするのは困難ですが、商業小説ではまず見られないような既存の枠組みから外れた小説を書きたい方にはもってこいのカテゴリです。

？純文学

？一般小説

？ライトノベル

？ネット小説

この4つの中で、自分の書きたいものがどれに近いのかを考えてみてください。

それがあなたの小説を読む「読者層」を決定する重要な分類になります。

Q・こんな分類で読者層が決まるの？

これら4つは、メインとなる対象読者が大きく異なってくるのです。

作者が読者を知ること、読む人をガッカリさせない小説を書きやすくなります。

純文学は「主に30代以上の、文学にある程度精通した方々」が好んで読む傾向。

一般小説は基本的に「どの年齢層の読者にも楽しめる」ように書かれているのが特徴です。決まったターゲットを持たないために個

々の作品が得意とする読者層を持っていて、そのため作風に多様性があります。

ライトノベルは「10代の中高生と、20代〜30代のアニメ・漫画好きの読者」がメインです。細かい違いでは男性向けと女性向けがありますが、キャラクターを重視するという基本的な考え方が共通しています。

ネット小説に関しては、自ずと「WEB端末を使つても小説を読みたい読者」に限られることもあり、他の3つとは別の線引きで読者層が異なることがわかるでしょう。

数年前から話題になっている「ケータイ小説」はネット小説に分類できますが、主な読者は若い女性です。普段本を読まない女子高生やOLを読者層に取り込んだことが成功の秘訣、とまで言われていました。

話は右に逸れますが……。同じネット小説でも、この「小説家になろう」の読者層はケータイ小説の読者層とも微妙にズレており、かつ幅広いように感じます。

大手投稿サイトである「小説家になろう」は、ネット上で執筆活動をしている人なら誰でも読者になり得ますし、女子高生も男子中学生もいれば読む側専門の大人も多いようです。

しかし、ランキングの推移やユニークアクセスの偏りを見る限り、主要読者にはある程度の共通点といえますか、一定の読書傾向があることがわかります。

「小説家になろう」の読者傾向についてはいずれ他のテーマでもふれる予定ですので、詳しくはそちらをご参照ください。

今回はジャンルについてご紹介します。 M

最初にどんな作風にするか決めておく？

作風を決定する大きな要因は、対象となる読者層と作品のジャンルです。

今回はジャンルについて、基本的なおさらいをしておきましょう。

Q・どんなジャンルがあるの？

ジャンル分けは作品の特徴の一部をとらえて分類しているにすぎないので、いくらでも細かく分類できます。参考までに有名なものを取り上げると、以下のようなものがあります。

- ・ファンタジー
- ・SF
- ・恋愛
- ・青春
- ・コメディ
- ・ギャグ
- ・推理
- ・ホラー
- ・アクション
- ・バトル

「ラブコメ」であれば「恋愛」+「コメディ」です。同じ「ファンタジー」でも「青春」と組み合わせるか「バトル」と組み合わせるかにより、「ファンタジー風味の青春物語」にも「異世界魔法バトル」にも成り得ます。このように、組み合わせ次第でいくらでも新しいジャンルが生まれます。

各ジャンルについての詳しい解説は、機会があればまた後日。

Q・どれを書けばいいのかわかりません。

最初は書きたいものを書くのが一番です。

でも長く書いていると読者人気を勝ち取るためにはジャンルが限られているように思えてしまったり、自分が応募しようと考えている新人賞が、ファンタジーでしか募集をしていなかったりということも多々あります。

人気ジャンル（募集ジャンル）で小説を書くか。自分の書きたいジャンルで人気を取れるように工夫するか。

自分の書きたいものを書くだけなら何でも好きなように書けますし、完結するまでの文字数も自由です。

しかし多くの他人に喜んでもらえる小説を書くためには、このどちらかを選ぶしかありません。

？自分がどんな内容を書きたいかを考えると、自動的にジャンルが決まる

？どんなジャンルだと読者を楽ませることができかを考えてから、具体的な内容を決める

たとえば「時間旅行」など、思いついたアイデアを活かしたいなら自動的にジャンルは「SF」になります。（ファンタジーもので魔法の力で時間旅行をさせてしまう荒技もありますが、時間旅行ものとしてある程度のパターンや理屈を踏襲する関係で、SFジャンルの論理と読者を無視できません）

あるいは、多くの読者が可愛い女の子好きだから「ハーレムもの」を書くこう、というのも一つの正解です。

しかしそれでもSFを書きたければ、「女の子がたくさん出てくる時間旅行もの」を書くことで両方の課題をクリアできることですよ。

ですので？も間違っているわけではなく、むしろ意欲作を生み出せるきっかけになり得ます。

この2つは書くためのきっかけに過ぎないので、どちらが正しいということもありません。

よく考えたうえで、自分が「書きたい！うまく書ける！読者に喜んでもらえる！」と思ったジャンルで勝負しましょう。

小説の分類とジャンルについてのお話は、とりあえず以上で終了です。その他、作風を左右するものには「文体」や「人称」などがあります、これらについては後日別項目が設けられる予定です。

次回からはもっと具体的に、小説作法についてのエッセイを追加していきたいと思います。

M

プロットについて

プロットとは物語の構成を示した設計図です。

これを用意せずに小説を書き始めると辻褄が合わなくなったり途中で行き詰まる可能性が高くなります。ベテラン作家さんの「プロットは作りません」発言を鵜呑みにしてはいけません。あれは目に見える形として用意しないだけで、頭の中で物語の構成が出来上がっている可能性があります。

設計図の要素はこんな感じでしょうか？

- ? Who (誰が?)
- ? When (いつ?)
- ? Where (どこで?)
- ? What (なにを?)
- ? Why (なぜ?)
- ? How (どのように?)

もう少し明確にしてみましょう。

- ? 誰が? 主人公↓中堅企業に勤務する三十歳の男性
- ? いつ? 時代↓現代
- ? どこで? 場所↓日本
- ? なぜ? 動機↓イケメンになりたかった
- ? どのように? 魔法少女として悪と戦うことを条件に願いを叶えてもらう

注意してほしいのは「いつ?」↓「夏休み」や「どこで?」↓「放課後の学校」というようにしないことです。これは一つの場面で

あつて全体を把握するプロットには向きません。あと中年の魔法少女とか誰得とか言わない。

要素が出揃つたら千字程度で「あらすじ」を書きます。これは新人賞の応募要項にある「あらすじ」と認識して頂いて構いません。要するに物語の最初から最後までを書くわけです。注意点は「果たして二人の運命は？」というような煽り文にしたり登場人物や設定の描写に終始しないことです。

プロットで重要なのは「この物語の面白さはなにか？」と「この物語の特徴はどこなのか？」を伝えることです。ここに商業が絡むと読者層をはつきりさせることも省けません。例えば「中高生向け」や「二十代後半女性向け」というものです。

そういう意味ではWEB小説は強いですね。「想定」ではなく「結果」として読者を掴めているわけですから、これほど「読者層がはつきりしている」ものはないでしょう。「それなら出版社はランキングの上から順に出版していけば大勝利じゃないですか？」と思われた方もいるかもしれませんが、もし本当にそうなるなら膨大な手間と費用のかかる新人賞（ライトノベル系）が増加していくのはおかしいですね？ この辺については別の機会で詳細に取り上げるかもしれません。

閑話休題。

？この物語の面白さはなにか？

熱い異能力バトルが売りなのか？

可愛い女の子とのラブコメが売りなのか？

得体の知れない謎を解明していく緊張感が売りなのか？

？この物語の特徴はどこなのか？

これまでにない異能力が出てくる。

これまでにない属性トリックの女子が出てくる。

これまでにない仕掛けが出てくる。

それではこれらを踏まえて実際に千字程度の「あらすじ」を書いてみますね。

プロットを作成してみよう

それでは早速、簡単（千字程度）なプロット（物語の骨組み）を作ってみましょう。

誰も得しない物語ですが、例として確認してみてください。

起

中堅企業に勤める冴えない主人公（童貞）は、三十歳の誕生日を迎えたとき、謎の地球外生命体に「魔法使いにならないか？」と誘われる。世界を守るために得体の知れない敵と戦うことは不安だったが、どんな願い事でも一つだけ叶えてくれるという言葉に釣られて引き受けてしまう。戦闘時に美少女（十七歳くらい）化することに違和感はあったが、通常時は望み通りのイケメンとなって第二の人生をスタートさせる。

承

童貞を失うとすべての魔法が解けてしまうため、モテモテなのにHができないというジレンマに陥る。そんな日々の中で主人公は魔法使いとしてヒロイン（女子高生くらい）を助ける。一目惚れした主人公は美少女の姿を利用してヒロインと仲良くなる。そこで知り得た情報を基に主人公は偶然を装いイケメン姿で会いへ繋げる。ほどなくして付き合うことになった二人だが、ここでHできないというジレンマが表面化する。

転

高校を卒業するまでHはしないと問題を先送りしてきた主人公だが、ついにヒロインが高校を卒業して究極の選択をしなければならなくなる。つまり真実を「告げる」か「告げない」かの葛藤に苛

まれるわけだ。そんな折に主人公は「これまでにない強敵が現れた」と報告を受ける。ほかの魔法使い（全員美少女）と協力して強敵を打ち破った主人公はヒロインにすべてを告げる選択をする。すべてを知ったヒロインはそれでも主人公を受け入れてくれる。童貞を失った主人公は元の姿に戻り魔法使い（美少女）にもなれなくなる。

結

平穏な暮らしが始まると思っていた主人公だが、今度はヒロインから凄惨な事実を告げられてしまう。ヒロインは強大な魔力（童貞力）を持つ主人公の童貞を奪うために派遣された敵の刺客だったのだ。主人公は「偽りで掴んだ幸せは長く続かない」ということを思い知らされる。

？この物語の面白さはなにか？

三十路の童貞が美少女魔法使いになるため、卑猥な妄想と良心の呵責に苛まれる様。

？この物語の特徴はどこなのか？

苦笑い萌え。大人としての自尊心が可愛らしい魔術詠唱の邪魔をする。

面白いかどうかは別として、これが物語の設計図になります。これを基に「転」で現れる強敵や「結」でヒロインに裏切られる伏線を「承」に組み込むわけですね。また「起」に出てきた謎の地球外生命体が放置されているので、これを上手く「結」に絡めることができれば物語に深みが増します。ほかの魔法使い（美少女）との関係性については簡易プロットの段階で詳しく書き込む必要はありません。

ここから詳細プロットを作り込んでいく方法もありますが、それはまた別の項目で説明することにしましょう。ともあれ文庫一冊程

度の分量なら簡易プロット＋登場人物を書き記したキャラクターシートがあるだけでも破綻しない物語を書きやすくなります。 N

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3716ba/>

0から始める小説の書き方徹底講座！

2012年1月12日19時49分発行